

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	横浜市立大学		
② 大学等の設置者	公立大学法人横浜市立大学	③ 設置形態	公立大学
④ 所在地	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2		
⑤ 申請するプログラム名称	ADEPTプログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			有
⑧ 教員数	(常勤)	778	人
	(非常勤)	891	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		40	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	900		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	4,252
	1年次	950	人
	2年次	983	人
	3年次	995	人
	4年次	1,149	人
	5年次	101	人
	6年次	74	人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	中條 祐介	(役職名)
			高等教育推進センター長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	高等教育推進センター		
	(責任者名)	中條 祐介	(役職名)
			高等教育推進センター長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	ADEPTプログラム管理部会		
	(責任者名)	山崎 眞見	(役職名)
			ADEPTプログラム管理部会長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	学務・教務部 教育推進課 学術企画担当	担当者名	星野 高宏
E-mail	acaplan@yokohama-cu.ac.jp	電話番号	045-787-8944

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

「領域横断型 ADEPTプログラム」は、事前に参加申請を行い、プログラムを構成する「必修科目(下記1・2)」、「選択科目(下記3～12)」から1単位以上取得した場合に、プログラム修了とする。

(1)必修科目: 1. 情報コミュニケーション入門/情報リメディアル、2. 総合講義(データサイエンス入門)

(2)選択科目: 3. 総合講義(企業家に学ぶ)、4. プログラミング基礎、5. データ分析基礎、6. ビジネス統計Ⅰ、7. ビジネス統計Ⅱ、8. 基礎物理学実験、9. 課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)、10. 課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)、11. 社会調査法入門、12. 情報倫理

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	1/0	○	全学開講	○		情報倫理	2		全学開講	○	○
総合講義(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○						
総合講義(企業家に学ぶ)	2		全学開講	○	○						
プログラミング基礎	1		全学開講	○	○						
ビジネス統計Ⅰ	2		全学開講	○							
課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)	2		全学開講	○							
社会調査法入門	2		全学開講	○							

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	1/0	○	全学開講	○							
総合講義(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○						
プログラミング基礎	1		全学開講		○						
データ分析基礎	1		全学開講	○							
課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)	2		全学開講	○	○						
社会調査法入門	2		全学開講	○	○						
情報倫理	2		全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	1/0	○	全学開講	○		課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)	2		全学開講	○	○
総合講義(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○	課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)	2		全学開講	○	
総合講義(企業家に学ぶ)	2		全学開講		○	社会調査法入門	2		全学開講	○	○
プログラミング基礎	1		全学開講	○							
データ分析基礎	1		全学開講	○							
ビジネス統計Ⅰ	2		全学開講	○							
ビジネス統計Ⅱ	2		全学開講	○							

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	1/0	○	全学開講	○	○						
総合講義(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○						
プログラミング基礎	1		全学開講	○							
データ分析基礎	1		全学開講	○							
課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)	2		全学開講	○							
社会調査法入門	2		全学開講	○	○						
情報倫理	2		全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	1/0	○	全学開講	○	○	○	課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)	2		全学開講	○	○	
総合講義(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○	○	課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)	2		全学開講	○	○	○
プログラミング基礎	1		全学開講			○	社会調査法入門	2		全学開講	○	○	○
データ分析基礎	1		全学開講	○	○	○							
ビジネス統計Ⅰ	2		全学開講	○		○							
ビジネス統計Ⅱ	2		全学開講			○							
基礎物理学実験	1		全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・コンピュータと社会「情報コミュニケーション入門」(1回目) ・ビッグデータ, データを起点としたものの見方、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方、AI、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化、人間の知的活動とAIの関係性、計算機の処理速度の向上、「総合講義(データサイエンス入門)」(1~3, 5~14回目)
	1-6 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習、分析データ蓄積・処理の技術進化Google誕生によるビッグデータ時代の到来「総合講義(データサイエンス入門)」(5, 12回目) ・新しいテクノロジーの社会実装(データやAI活用によるビジネスを含む)「総合講義(企業家に学ぶ)」(2~14回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・データ作成、情報化社会のあゆみと法制度と情報倫理、調査データ、実験データ「情報倫理」(2, 14, 15回目) ・社会調査の種類、社会で活用されているデータ(政策・制度づくり、計画策定、社会福祉サービス利用の判断支援など) 1次データ、2次データ、データのメタ化、構造データ、非構造化データ(文章、画像、音声・音楽など)、データの作成、データのオープン化(オープンデータ)「社会調査法入門」(2回目)
	1-3 ・研究開発, 仮説検証, 原因究明, 計画策定, 調達, 製造, 物流, 販売, マーケティング, サービス, 判断支援, 活動代替, 新規生成, 「総合講義(データサイエンス入門)」(1~14回目) ・統計的仮説検定の考え方「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)」(13回目) ・現代社会におけるプログラミング事情, シミュレーションの方法「プログラミング基礎」(2, 13回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・図形処理(データの可視化, アニメーション表現), プログラミング総論(プログラムの役割, プログラミング言語の種類, 開発環境)「プログラミング基礎」(2~14回目) ・社会調査のデザイン、データの解析や可視化を含む全体の流れ, 構造データ、非構造化データ(文章、画像、音声・音楽など)「社会調査法入門」(4回目) ・グラフ機能, データベース機能, オープンデータの利用, 計算の表現「情報コミュニケーション入門」(6~10回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査のサイクル(課題抽出と定式化、データの取得、管理、加工、解析、結果の共有、課題解決に向けた提案)「社会調査法入門」(3回目) ・流通, 金融, インフラ, 公共, ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介, 「総合講義(データサイエンス入門)」(1~14回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れられる権利、データ倫理-データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護、AI社会原則、データバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「総合講義(データサイエンス入門)」(4回目) ・データに関する倫理やデータ・アルゴリズムの偏りを理解「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)」(5回目) ・プライバシーと個人情報保護、情報化社会のあゆみと法制度と情報倫理、知的財産権と著作権の保護、サイバーセキュリティ法制の概要「情報倫理」(1~15回目) ・研究倫理について、個人情報保護、データの倫理(捏造、改ざん、盗用、プライバシー保護)、データバイアス、調査協力者の扱い「社会調査法入門」(7回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの三要素の法制度の概要、完全性(integrity)、機密性(confidentiality)、可用性(availability)、情報モラル(ネチケット)、メディアリテラシー、サイバー犯罪、サイバーセキュリティ法制の概要「情報倫理」(1~15回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「総合講義(データサイエンス入門)」(4回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・時系列データ、分布の形・中心・散らばり、2つのデータの関係性(量的・質的データ)「ビジネス統計 I」(2~7回目) ・データの種類、データのばらつき「基礎物理学実験」(1回目) ・様々なデータの種類と種類に応じたデータの処理方法、データ取得の方法(調査)、統計量を用いたデータ記述の方法、相関関係と因果関係「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)」(2, 4, 8, 9, 11回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・質的データを表やグラフに表現し、情報を整理する「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)」(6, 7回目) ・「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)」(4, 5回目) ・多変量データの分析(相関関係, 回帰分析の基礎, 可視化, 質的情報の処理, クロス集計)「データ分析基礎」(9, 10回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・測定システムを構築し電流や温度を制御する、電圧を定期的に測定「基礎物理学実験」(3, 4回目) ・変数間の相関関係、変数間の相関関係「課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)」(2, 3, 8, 9回目) ・二項分布、正規分布、標準正規分布「ビジネス統計 I」(11~13回目) ・母集団と標本、正規分布、仮説検定、回帰分析「ビジネス統計 II」(2~14回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

現代における情報化社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることが重要となっている。本プログラムでは、様々な分野、社会におけるデータ・AIの活用についての現状や、データを扱う上での留意事項等について理解するとともに、修得した知識・技能を基に、人間中心とした適切な判断ができ、自らの意志でデータやAI技術を有効かつ、安全に活用することができる素養を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/activity/people_development/index.html

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
国際教養学部	270	1080	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	2%
国際商学部	260	1040	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2%
理学部	120	480	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	3%
データサイエンス学部	60	240	28	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	12%
医学部	190	940	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1%
合計	900	3780	95	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95	3%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

高等教育推進センター

② 体制の目的

<p>高等教育に関する全学的な戦略及び方針策定を行い、実施、推進するため、高等教育推進センターを設置(令和4年度)。データ思考にかかる教育推進に関する事項を含め、全学的な方針及び戦略の策定を所掌する。</p> <p>(なお、令和3年度までは「データサイエンス推進センター」にてデータ思考に係る教育の方針決定を所掌していたが、高等教育推進センターの設置に伴い発展的に解消、移行された)</p>

③ 具体的な構成員

<p>高等教育推進センター長 中條祐介(副学長)</p> <p>高等教育推進副センター長 本多尚(共通教養長)、船越健悟(医学部教授)、小林謙一(学務・教務部長)</p> <p>教育開発部門長(データ思考教育に関する開発を含む) 中條祐介(副学長)</p> <p>※なお、具体的なプログラムの構築・改善に際しては、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」のプログラム担当教員により構成されるワーキング「ADEPTプログラムWG」を定期的に開催し協議している。</p> <p><構成員></p> <p>ADEPTプログラム ワーキング長 山崎 眞見(データサイエンス学部長)</p> <p>※併せて、全学共通の学部横断プログラムのため、全学部長が参加する「共通教養会議(年4-5回実施)」でも方針の共有および意見交換が行われている。</p> <p><構成員></p> <p>共通教養長:本多尚、全学部長、共通教養教育の学科代表者等</p>

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	3%	令和4年度予定	12%	令和5年度予定	23%
令和6年度予定	36%	令和7年度予定	51%	収容定員(名)	3,780
具体的な計画					
<p>履修率向上によって目標履修者数を達成するため、令和3年度より、プログラム対象科目(必修科目)について、各学部の時間割を調整し、全学部生が履修可能な時間へ配置した。以後の取り組みにより、5年目以降には全学部生の半数以上が履修できる体制を構築する。</p> <p>令和4年度以降は、履修率の向上に向けて、以下のような取組を重ねる。</p> <p>(1) 時間割配置の変更および工夫</p> <p>(2) 学生周知の徹底:新学期オリエンテーション等での周知</p> <p>(3) 履修指導</p> <p>(4) 学部単位での履修ロードマップ、履修モデルの作成</p> <p>(5) 全学部の年度計画化:令和4年度から「データ思考」を全学部・研究科の共通課題に位置づけ、各学部は、本プログラムを含めた年度目標を立てて自己点検評価を行う。</p>					

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

(1)科目配置:2科目のプログラム必修科目のうち「情報コミュニケーション入門/情報リメディアル」は、正課カリキュラムでも卒業要件となる科目のため、学部生全員が履修する。また、もう一方のプログラム必修科目「総合講義(データサイエンス入門)」は、全学部生が履修できる曜日・時限に開講するよう時間割調整を行う。(令和4年度は他科目と重複しない6時限目に開講する)併せて、希望者全員が履修できるようにオンライン開講とする。プログラム選択科目を履修可能にするため、学部専門科目の時間割配置を変更する。

(2)オリエンテーション、説明会:在校生および新入生に本プログラムの説明・紹介を行い、プログラム登録を行うため、新入生および在校生全員が参加する学期始めの「(学部別)オリエンテーション」でプログラム説明を行うとともに、全学共通の「領域横断型プログラム説明会」でも説明対象プログラムとする。対象科目やゼミ単位でも周知を行う。

(3)履修指導:令和4年度から稼働したLMSを活用し、学生指導や学修サポート等を行い、学生のプログラム履修を促進する。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

(1)オリエンテーション、説明会:在校生および新入生に本プログラムの説明・紹介を行い、プログラム登録を行うため、新入生および在校生全員が参加する学期始めの「(学部別)オリエンテーション」でプログラム説明を行うとともに、全学共通の「領域横断型プログラム説明会」でも説明対象プログラムとする。

(2)学部共通履修ガイドへのプログラム掲載(領域横断型プログラム)

(3)YCU-Portal(履修登録・シラバス)やYCU-Board(ポータル、LMS機能)等の学生利用システムへの情報掲載

(4)大学Webサイトへの情報掲載および学生利用システムへつながるリンク掲載

(5)学部単位での履修ロードマップ、履修モデルの作成および周知:各学部毎にデータサイエンス能力獲得のための可視化を図る。

(6)ゼミにおける周知:1年次の教養ゼミ・基礎ゼミ、2年次以降の各学部ゼミ単位でも周知。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・YCU-Board(ポータル、LMS機能)、およびOffice365のTeamsなどを用いて、ICTを活用した学修支援を行う。特に、令和4年度以降は学生用LMS(YCU-Board)を全学で導入して、学習進捗の管理を行うことが可能となったため、学生のプログラム参加のモチベーション向上が期待される。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

・本プログラム全般に関しては、担当事務局が学生からの質問や相談を受け付ける。
また、プログラム(科目)担当教員は、授業時間以外にも、学生から質問や相談をメール、LMSやTeamsのチャット機能などを用いて受け付けることが可能である。

・各講義内またはシラバスにおいて科目担当教員のオフィスアワー(実施場所や連絡方法)を学生へ周知し、学生からの質問等を受け付ける。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p data-bbox="197 359 607 395">学内からの視点</p> <p data-bbox="241 614 595 683">プログラムの履修・修得状況</p> <p data-bbox="241 1134 371 1171">学修成果</p>	<p data-bbox="607 400 2080 507">ADEPTプログラム管理部会の履修指導、修了要件の確認を経て、教育推進課において、プログラムの履修・取得状況の分析を実施し、全学部長が構成員となっている「共通教養会議」で確認の上、課題についての意見交換を行う。</p> <p data-bbox="607 544 1234 715"> 国際教養学部:23人(全学部生の2%) 国際商学部:24人(全学部生の2%) 理学部:13人(全学部生の3%) データサイエンス学部:28人(全学部生の12%) 医学部:7人(全学部生の1%) </p> <p data-bbox="607 906 2080 1077">ADEPTプログラムへの参加申請フォームにおいて、学生から履修予定の科目とプログラムへの参加理由を表記の上申請を受け付けることで、学生側には本プログラム履修の目的意識を付ける。また、修了申請フォームにおいては、修得した科目と学修後に得た技術や意識変化について提出させることで、学修成果の振り返りができるような運営を行う。 大学側では、学生の参加申請・修了申請の際に提出された記載内容を分析し、プログラムの改善に活用する。</p> <p data-bbox="607 1118 2080 1225">また、全科目において「授業評価アンケート」を実施し、学生の理解度及び学修成果を把握する。各学部のFD・SD推進委員会にて分析結果を共有するとともに、各学部でも分析し、各科目の改善に活用するほか、その後のFD活動の課題として活用する。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>ADEPTプログラムの修了申請において学生からのフィードバックの内容を基にプログラム参加前後での数理・データサイエンス・AIの基礎的素養に関する理解度を比較する。</p> <p>全科目において実施している「授業評価アンケート」のうち「学習到達目標の達成」等の項目を分析することにより、学生の理解度及び学修成果を把握することができる。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>ADEPTプログラムへの参加、及び修了申請フォームにおける好事例や、学期毎に実施される授業評価アンケートの結果を抜粋し、受講生の声を後輩や未受講の学生に提示することで、プログラム参加を促す取組を進める。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>令和3年度は、目標履修者数を達成するために、プログラム対象科目(必修科目)について、各学部の時間割を調整し、全学部生が履修可能な時間へ配置した。</p> <p>令和4年度はプログラム必修科目の一つを、プログラム外の学部科目と重複しないよう6時限目に移動する。併せて、令和4年度から稼働したLMSを活用し、学生指導や学修サポート等を行い、学生のプログラム履修を促進する。</p> <p>(間接的には、令和4年度から「データ思考」を全学部・研究科の取り組み課題として位置づけ、年度目標を立て、自己点検評価を行うこととなった)</p> <p>また、前述のADEPTプログラムへの参加・修了申請フォームにおける好事例等の周知により、学生の参加意欲向上を促す。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本学では、卒後3年目の学生に、「卒業生アンケート」を実施しているため、今後本プログラムを修了した学生の進路や勤務先等における活用度状況等の把握が可能である。</p> <p>また、本プログラムの修了者の進路についてはデータ収集を進め、協力が得られる場合には、修了者や勤務先にヒアリング等を行い、本プログラムについて外部的に評価をするしくみを構築していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>プログラム担当教員は、共同研究関係企業や包括連携協定を結ぶ企業等から広く意見を募り、その意見を収集することでプログラム改善に活用する。</p> <p>今後は、大学が主催する「合同企業説明会参加企業(例年200社前後)」に対してアンケートを実施し、本学の教育プログラムの内容や、企業が本学に求める教育の意見収集を行うことも検討する。</p>

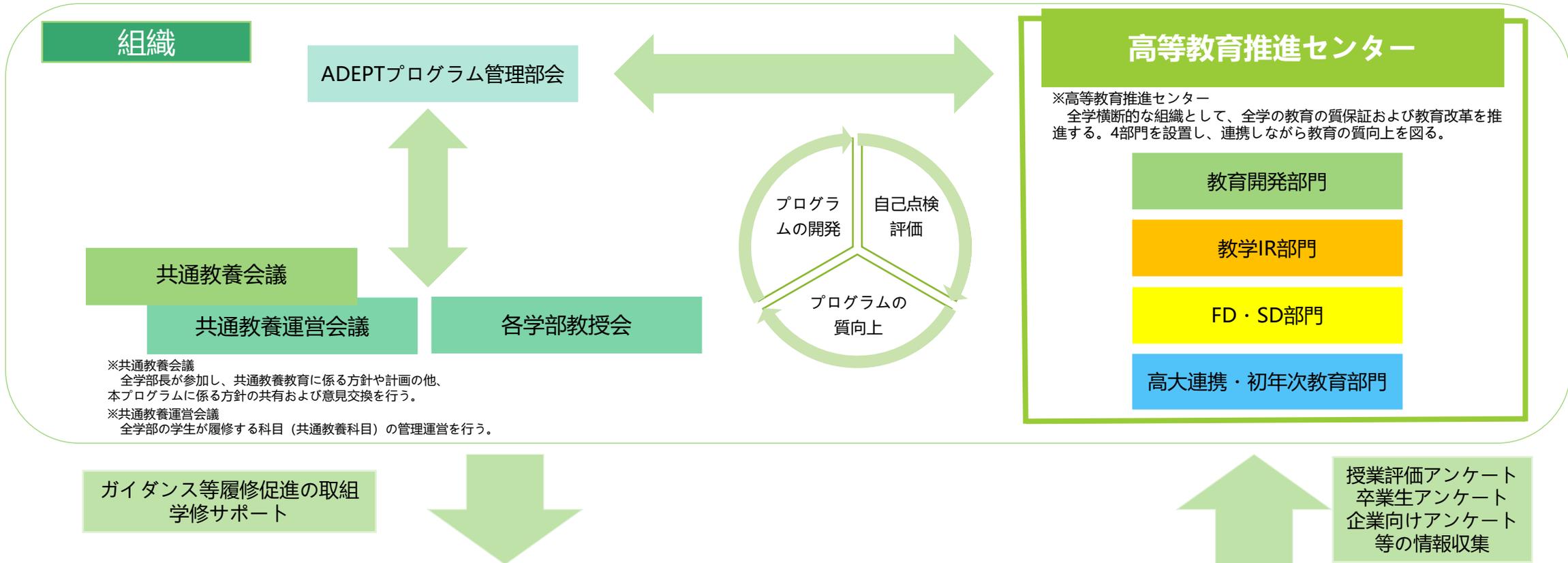
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>全学部生の必修科目では、データを起点としたものの見方、データ量の増加とビックデータ、計算機の処理性能の向上、AIの進化、人間の知的活動とAIの関係性など、情報の進化を学びながら、リテラシーレベルに相応の内容で構成している。ADEPTプログラムの修了申請フォームの内容や学期毎の授業評価アンケートにより、内容を検証するとともに、学生の興味関心を惹きつけるテーマや事例について改善を行っている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>ADEPTプログラムの修了申請フォームの内容全科目の授業評価アンケートの結果について、教学IR検討ワーキング、FD・SD委員会および各学部担当教員が分析し、次学期以降の教育改善に役立てている。併せて各学部でのFDに活用する。 令和4年度は、FD・SD委員会を通じて学生との意見交換を開催することを計画しており、「学生の立場に立った分かりやすい授業」の実施を目指す。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/activity/people_development/index.html#title7



横浜市立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル） 取組概要



教育プログラム

【対象学生】全学部学生
国際教養学部
国際商学部
理学部
データサイエンス学部
医学部

ADEPTプログラム (AI Data Science Education Program for Tomorrow)

【学修目標】

- ①社会で起きている変化、データ・AI利活用の最新動向を身につける
- ②社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域を身につける
- ③データ・AI利活用のための技術を身につける・データ・AI利活用の現場を学ぶ
- ④データ・AI利活用における留意事項、データを守る上での留意事項を身につける
- ⑤データを読む、データを説明する、データを扱う能力を身につける

【プログラム修了要件】

- ①必修科目2科目（3単位）
 - ②選択必修科目1科目以上（1単位以上）
- ※修了申請後、修了証が発行されます。



数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム（リテラシーレベル）の取り組み

横浜市立大学 ADEPTプログラム

(AI Data Science Education Program for Tomorrow)

【創設の背景・目的】

現代における情報化社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることが重要となっています。

横浜市立大学のADEPTプログラム（全学部共通）では、修得した知識・技能を基に、人間中心とした適切な判断ができ、自らの意志でデータやAI技術を有効かつ、安全に活用することができる素養を身に付けることを目的としています。

【学修目標】

- ①社会で起きている変化、データ・AI利活用の最新動向を身につける
- ②社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域を身につける
- ③データ・AI利活用のための技術を身につける・データ・AI利活用の現場を学ぶ
- ④データ・AI利活用における留意事項、データを守る上での留意事項を身につける
- ⑤データを読む、データを説明する、データを扱う能力を身につける

【対象者】

全学部学生（国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部、医学部）



【プログラム修了要件】

- ①必修科目 2 科目（3 単位）
- ②選択必修科目 1 科目以上（1 単位以上）

※申請前に履修済みの科目は追認。

※修了申請後、修了証が発行されます。

【ADEPTプログラム科目一覧】

区分	科目名	科目種別	受講可能年次	学修目標				
				①	②	③	④	⑤
必修	情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	共通 教養 科目	1～4年次	○	○	○	○	○
	総合講義(データサイエンス入門)		1～4年次	○	○	○	○	○
選択 必修	総合講義(企業家に学ぶ)		1～4年次	○		○		
	プログラミング基礎		1～4年次	○	○	○	○	○
	データ分析基礎		1～4年次		○	○	○	○
	ビジネス統計Ⅰ		1～4年次	○		○		○
	ビジネス統計Ⅱ		1～4年次			○		○
	基礎物理学実験		1～4年次					○
	課題探究科目(データサイエンス・リテラシー1)		1～4年次	○	○	○	○	○
	課題探究科目(データサイエンス・リテラシー2)		1～4年次			○		○
	社会調査法入門		1～4年次	○	○	○	○	○
	情報倫理		1～4年次	○	○		○	